

産科医療補償制度 第110回原因分析委員会 議事要旨

日時：2026年6月9日（火） 16時00分～17時36分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：安達久美子、五十嵐裕美、石川浩史、川田綾子、木崎孝、
佐藤昌司、下屋浩一郎、鈴木俊治、関沢明彦、高橋尚人、
豊田郁子、馬目裕子、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2026年4月末時点で累計4,473件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、2022年度より実施している報告書作成期間を概ね1年に短縮する取組みの状況等が報告された。

○過去に「別紙(要望書)」対応^(※1)を行った分娩機関で再び同一の診療行為に関し厳しい評価がなされたことを受けて、前回の原因分析委員会において、日本産婦人科医会（以下「医会」）の支援のもと再発防止に向けて一層の改善に取り組むことを要請する2回目の「別紙(要望書)」を送付することが決定された。2026年1月、同分娩機関へ2回目「別紙(要望書)」を送付、同月中に同分娩機関より医会による支援実施の依頼があり、2026年4月、医会による改善取組み支援が実施されたことが報告された。

○2026年4月末時点の「別紙(要望書)」対応の状況について、累計実施件数が161件、改善要望項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多いこと、また、医会による改善取組み支援の実施件数が累計7件となったこと等も報告された。

2) 原因分析報告書の公表・開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○2026年4月末時点で、4,448事例の原因分析報告書要約版を公表したこと、また、原因分析報告書全文版（マスキング版）については、2015年11月の開示方法変更以降、20件の利用申請を受け付け、延べ5,394事例の報告書を開示したこと等が報告された。

3) 原因分析報告書「1. はじめに」の改訂について

○原因分析報告書の「1. はじめに」の文言について、前回改訂から約3年が経過したこと、事務局より提示された改訂案を基に審議が行われたが決定に至らず、改めて事務局にて修正案を作成のうえ委員の確認を得ることとなった。

4) その他

＜産科医療補償制度 新システム利用開始について＞

○本制度の新システム「産科ネット」が2026年3月10日にリリースされたことが報告された。

(※1) 同一分娩機関において複数事案目の事例が発生し、原因分析でも、これまでと同様の指摘が行われ、改善がみられない、または、同じような事例の発生が繰り返されるおそれがあると原因分析委員会が判断した場合、該当の分娩機関に対し「別紙(要望書)」を送付し、改善取組みとその報告を求めている。

以上